

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

いつまでも住みつづけられる 世界のために
「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて

共立社のSDGs

持続可能な開発目標(SDGs)って？

「SDGs」とは「持続可能な開発目標」のこと。

2015年9月に国連サミットで、「今、全世界が取り組むべき課題」として採択された2016年～2030年までに取り組む国際目標であり、開発途上国・先進国にかかわらず、世界中の人々すべてがめざすゴールです。

2030年までに、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、今後も何世代も先の人々が、この地球で人間らしく暮らしていくために必要な17の目標が掲げられています。

生協の活動は SDGs そのもの

協同組合は、競争の原理だけでは解決できない、飢餓や貧困などの解決に「助け合い」の組織として取り組んでいます。

生協は、思いを同じくする組合員みんなの「願い」を実現するための組織であり、SDGsの取り組みそのものともいえるのです。共立社でも「いつまでも住み続けられる まちづくり」に向けて様々な取り組みを行っています。

生活協同組合 共立社

～ 今こそ 踏み出そう! 未来へ続く社会のために ～ 持続可能な社会の実現に向けて 生協共立社の取り組み

2030年までに実現を目指す共立社のSDGs 3つの重点課題

1 地域の居場所づくりを他の協同組合や団体、行政とも協力しながらすすめます。持続可能な新たな形の拠点を設置して、一人暮らしの高齢者を始め、より多くの方が生協に繋がっている状態を実現します。既存施設も含めて、小学校区に一つの居場所づくりを目指します。

2 地球温暖化防止のためのCO₂排出量削減に取り組み、2030年の生協共立社所有施設や車輛等によるCO₂排出量を2013年比で30%以上削減するとともに、4R運動をすすめていきます。また、再生可能エネルギーの普及のため、コープでんき「ココエネ」の利用者を組合員数の1割まで高めます。

3 山形県内の社会福祉に寄与する団体や組織の支援のため、コープフードバンクを推進します。また、くらしのセンター、共同購入とも、フードドライブに取り組み、組合員の理解と運動参加を広めます。

今、世界で起きていること。

格差と貧困は拡大し、紛争やテロはなくなり、深刻化する環境問題は気象変動や災害、生物多様性の喪失を生み、一部の人々の便利なくらしや利益のために人権を搾取されているたくさんの方がいます。そして、私たちが今後も何の対策も取らずに、今のままのくらしを続けたとしたら、次の世代、その次の世代も安心して人間らしくこの地球上でくらし続けられないのではないか、と危惧されています。

私たちが、この後の地球を救える最後の世代かもしれません。

日本生協連は、7つの取り組みを通じて、SDGsの実現に貢献することを決めました。7つの取り組みについて関連するSDGsの17の目標と、共立社の事業と活動をあわせて紹介します。

今こそ、SDGs実現のための一歩を踏み出しましょう!

1 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます



◆だれかの笑顔につながるお買い物～エシカル消費

●環境に配慮した商品、利用することで社会貢献につながる商品など、利用することで誰かの笑顔につながるCOOP商品を広げ、組合員の理解を深めるための学習を行っています。

◆地産地消・産直の取り組み

- 農業問題と農産物に関心を持ち、生産者との信頼関係を築きながら、ともに豊かな地域づくりに取り組むことをめざして産直交流会や援農交流に取り組んでいます。
- 米作り体験を通し、日本人の主食であるお米や環境問題について学び、考える米作り体験交流会、田んぼの生き物観察に取り組んでいます。
- 共立社に在席する山形県の認定資格「庄内浜文化伝道師」が、地元庄内浜のおいしい魚の食べ方や普及に取り組んでいます。

◆海の資源を守る取り組み

- 海洋汚染の原因となるプラスチックごみが世界的な問題となっています。このごみの削減のため、マイバッグやマイバスケット持参の取り組みを強化します。

◆陸の資源も守る取り組み

- くらしのセンター・共同購入とも、ギフト商品の簡易包装を進めています。



▲「米づくり体験交流会」

2 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します



◆電気小売り事業 コープでんき「ココエネ」

- 2018年5月より、原子力に頼らない再生可能エネルギーを積極的に取り入れたコープでんき「ココエネ」をスタートさせました。現在、契約者数は681件（3/20現在）となっています。
- 生協の施設へ太陽光発電設備の設置をすすめています。

◆リサイクルの取り組み

- くらしのセンターと共同購入では、容器包装のリサイクル回収を行っています。



▲「エコチェン」と鶴岡市がタイアップしたリサイクル活動

共同購入 牛乳パック・チラシ類・卵パック
センター 牛乳パック・チラシ類・発砲トレイ・透明食品トレイ・アルミ缶・ペットボトル
※チラシ類・卵パックは生協で取り扱っているもののみ回収します。

- 古紙回収システム「エコチェン」を設置し、雑紙や衣類の回収を行っています。（鶴岡こびあ・酒田こびあ・しろにし・すずかわ）

3 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します



◆ユニセフ(国連児童基金)活動

- 東北と北海道の生協と一緒に取り組む、ユニセフ指定募金活動に取り組んでいます。

◆コープフードバンクとフードドライブの取り組み

- コープフードバンクは、取引企業から余剰食品などを無償で提供を受け、社会福祉に寄与する団体や組織に無償で商品を提供する活動で、東北6県の生協で取り組んでいます。共立社では、現在13団体（3/20現在）と協定を結んでいます。
- フードドライブは、組合員からくらしのセンターで購入いただいた商品をその場で寄付して頂き、支援を必要とする福祉分野等の施設・団体に寄贈する活動です。現在、くらしのセンターを中心に取り組みが広がっています。

4 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します



◆平和を守る取り組み

- 日本生協連が主催する「ピースアクション in ヒロシマ」に組合員の親子を派遣し、原爆の悲惨さや平和の大切さを学ぶ機会として取り組んでいます。
- 日本生協連と沖縄県生協連が主催する「沖縄戦跡・基地めぐり」に組合員の代表を派遣し、真の平和と沖縄の基地問題について考える機会と位置付けています。2019年度からは、コープおきなわが主催する「6・23ファミリーピースウォーク」にも組合員を派遣します。
- 核兵器廃絶に向けた署名や、憲法9条を守るための署名にも積極的に取り組んでいます。
- 5年に一度開催されるNPT(核拡散防止条約)再検討会議に組合員の代表を派遣し、ヒパクシャのサポートと世界の現状を学ぶ機会としています。

◆日本国憲法を学び・守る活動

- 各地域で、憲法を学び生かす活動「憲法カフェ」等を開催しています。



▲「ピースアクション in ヒロシマ」

5 ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します



◆誰もが生き生きと活動できる場づくり

- 各地域のこ〜ぶ委員会や教室活動、委員会活動は、誰もが参加でき、生き生きと活動できる場となっています。

6 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します



◆移動店舗「せいきょう便」

- 買い物困難地域への買い物支援として移動店舗「せいきょう便」を走らせて、地域の組合員のくらしを支えています。

◆「御用聞き」・「100円配達」

- くらしのセンターでは、買い物に不便な方をサポートするため「御用聞き」を行っています。また、くらしのセンターに買い物に来て、重いものを持って帰れない方へ、「100円配達」を行い、喜ばれています。



▲移動店舗「せいきょう便」

◆「配食事業」(宅配弁当)

- 料理作りに不便している方や、困っている方をサポートするために「夕食宅配」を行っています。毎日配達することで見守り活動にもつながり、また、担当者との会話を楽しみにされている方もいます。

◆被災地支援の取り組み

- 2011年東日本大震災発生後、各地域で、被災地に寄り添う活動を継続しています。この活動は今後も継続していきます。



▲地域の「居場所」(酒田生協)

◆地域の居場所

- 生協につながっていれば何とかなる、そんな「居場所」づくりを広げていきます。
- 山形生協では「いっしょにばんごはん～みんなの食堂」が立ち上がりました。

7 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます



◆くらしのたすけあいの会

- 地域のたすけあいの会では、「困ったときはおたがいさま」を合言葉に地域の支え合いの活動を広げています。
- 医療生協やまがたと協同して、「おたがいさま」の活動に取り組む準備をしています。

◆「食品の安全パンフレット」

- さまざまな視点から「食」を捉え、健康で豊かな食生活に貢献できる活動として、「食品の安全パンフレット」をテキストに学習会を継続していきます。

第68回 日本生協連通常総代会特別アピール 「コープSDGs 行動宣言」

日本生協連は2018年の総代会において、「コープSDGs行動宣言」を採択し、持続可能な社会の実現に向けて、大きく役割を発揮していくことを表明しました。

私たちは、「生協の21世紀理念(1997年総会決定)」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。私たちは、以下の7つの取り組みをつうじて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます
2. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します
3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します
4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します
5. ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します
6. 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します
7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます



1 貧困をなくそう

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



2 飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



3 すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



4 質の高い教育をみんなに

すべての人に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



5 ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児の能力強化(エンパワメント)を図る



6 安全な水とトイレを世界中に

すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



8 働きがいも経済成長も

すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用および働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)を推進する



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱(レジリエント)なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新(イノベーション)の拡大を図る



10 人や国の不平等をなくそう

国内および国家間の不平等を是正する



11 住み続けられるまちづくりを

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱(レジリエント)かつ持続可能にする



12 つくる責任 つかう責任

持続可能な消費と生産のパターンを確保する



13 気候変動に具体的な対策を

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



14 海の豊かさを守ろう

海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



15 陸の豊かさを守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



16 平和と公正をすべての人に

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



17 パートナリシップで目標を達成しよう

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する